

NTT西日本から届出のあった活用業務に対して 総務省が行った確認の内容

西日本電信電話株式会社（以下「NTT西日本」という。）から、令和2年10月30日付けで、総務大臣に対し、日本電信電話株式会社等に関する法律（昭和59年法律第85号。以下「NTT法」という。）第2条第5項の規定に基づき、同項に規定する業務（以下「活用業務」という。）を営むことについての届出があった。

総務省において、当該届出に係る活用業務が同項に規定する範囲内で営まれることについて、届出の時点において届出書に記載された事項により確認した内容は以下のとおり。

1 届出の概要

今般届出のあった活用業務（以下「本件活用業務」という。）は、NTT西日本が、以下の設備を用いた業務を営むことについて届出があったものである。

①設備構成

NTT西日本が、同社の固定電話網等^{※1}と必要に応じて以下を組み合わせた構成とするもの。

- i) 契約者の端末に保持される契約者の録音データを解析し、必要な注意喚起を行うことを可能にするために、他の電気通信事業者（以下「他事業者」という。）との合意に基づき公募により調達したAI分析サーバ（以下「サーバ設備」という。）
- ii) 当該サーバ設備とインターネットとの間の通信を可能にするために、他事業者との合意に基づき公募により調達したインターネット接続回線及び、契約者の端末と当該サーバ設備との間に限定した通信をインターネットを介して可能とするために、他事業者との合意に基づき公募により調達したインターネット接続回線（以下「インターネット接続回線」という。）
- iii) 次世代ネットワーク^{※2}のSNI^{※3}（当該サーバ設備とNTT西日本の業務区域内のエンドユーザとの通信を可能とするために、他事業者との合意に基づき公募により調達した県間伝送路を介する場合も含む）

②提供する業務

以下の役務を組み合わせて提供するとともに、インターネット接続回線区間の料金設定を行うもの。

- i) 当該サーバ設備によるアプリケーションサービスの役務提供
- ii) 契約者が注意喚起の通知先として指定したメールアドレス・電話番号への、当該サーバ設備によるメール発信・発呼（以下「メール等送受信サービス」という。）の役務提供
- iii) 当該サーバ設備及びアプリケーションについて、電話若しくは訪問、またはそれらを組み合わせたサポートサービス（以下「サポートサービス」という。）の役務提供

また、要望に応じて、固定電話等サービス契約者等に対して上記サービス等を提供することを目的とする他の企業等にも上記の役務提供及び料金設定を行うものである。

なお、これらの役務提供及び料金設定は西日本エリアにおいて行うものである。

※1 加入電話、ISDN、ひかり電話

※2 総基事第14号（平成15年2月19日）及び総基事第39号（平成20年2月25日）で認可された申請において規定する「地域IP網」及び「次世代ネットワーク」とする。

※3 SNI（Application Server-Network Interface）：各種アプリケーションサーバ類とネットワークを接続するためのインタフェース。地域IP網上のUNI（User-Network Interface）との接続を含む。以下同じ。

2 確認の内容

NTT法第2条第5項において、NTT東日本及び西日本電信電話株式会社（以下「NTT東西」という。）は、

- (1) 地域電気通信業務等の円滑な遂行に支障のない範囲内
- (2) 電気通信事業の公正な競争の確保に支障のない範囲内に限り、活用業務を営むことができると規定されている。

本件活用業務が、これらの範囲内で営まれるものであることについて、「NTT東西の活用業務に関する「地域電気通信業務等の円滑な遂行及び電気通信事業の公正な競争の確保に支障のない範囲内」についての考え方【NTT東西の活

用業務に係る公正競争ガイドライン】」（平成23年11月策定。以下「ガイドライン」という。）に則し、NTT西日本の届出書に記載された事項により、以下のとおり確認を行った。

3 確認の結果

(1) 地域電気通信業務等の円滑な遂行に支障のない範囲内であること

ガイドラインに基づき、

- ① 活用業務を営むために過大な投資を行うことにより、NTT東西の財務を圧迫し、地域電気通信業務等の円滑な遂行を困難にするおそれがある場合
- ② 地域電気通信業務等を営むために保有している設備や職員等の既存の経営資源を過度に転用することにより、地域電気通信業務等に関する利用者サービスの維持・向上に係る取組がおろそかになるおそれがある場合に該当するか否かについて、検討を行う。

NTT西日本は、本件活用業務を営むに当たっては、市販で調達可能なサーバ設備を調達するとともに、公募により調達したインターネット接続回線又は次世代ネットワークのSNIを組み合わせることで利用することとしており、このための所要の資金は、 であるとしている。

本件活用業務の実施規模及び同社の設備投資規模を踏まえれば、過大な投資により、地域電気通信業務等の遂行を困難にするおそれは生じないものと考えられる。

また、既存の経営資源の活用に関しても、設備については、本件活用業務を実施することによりトラフィック増等が発生し、地域電気通信業務等に影響が生じるおそれがある場合には、必要な設備増強等を図ることで、地域電気通信業務等に影響が生じないように対処するとしている。さらに、職員についても、現在の固定電話網等サービスの提供に関する業務を行う組織の職員を活用する予定であるとしているところ、本件活用業務の内容及びその実施規模を踏まえれば、過度の経営資源の転用により、地域電気通信業務等に関する利用者サービスの維持・向上に係る取組がおろそかになるおそれも生じないものと考えられる。

以上のことから、本件活用業務は、NTT西日本による地域電気通信業務等の円滑な遂行に支障のない範囲内で営まれるものであると考えられる。

(2) 電気通信事業の公正な競争の確保に支障のない範囲内であること

ガイドラインに基づき、

ステップ1 電気通信事業の公正な競争の確保に支障を及ぼすおそれの程

度について検討し、
ステップ2 その上で、当該「おそれ」の程度に応じて公正な競争を確保するために必要な措置が十分かつ有効に講じられているか否かについて検討する。

1) ステップ1 「電気通信事業の公正な競争の確保に支障を及ぼすおそれ」の程度

おそれの程度に関する評価を行うに当たっては、ガイドラインにおいて、①地域通信市場における競争の進展状況、②ボトルネック設備との関連性及び③他の市場支配的な電気通信事業者との連携の有無を重点的に考慮することとされている。

このうち、上記①については、地域電気通信市場における競争が進展していない場合、NTT東西は同市場における市場支配力を競争分野において濫用するおそれ大きいと考えられる。

また、上記②については、競争事業者がNTT東西の営む新たな業務と同様の業務を実施する場合、NTT東西の設置するボトルネック設備への依存度が高いとすれば、当該ボトルネック設備及びこれと一体として構築される新たなネットワーク要素のオープン化の要請が高まると考えられる。

さらに、上記③については、市場支配的な電気通信事業者であるNTT東西が活用業務を営むに当たって、他の市場支配的な電気通信事業者との連携を行うとすれば、当該事業者の市場支配力が結合することにより、競争事業者等との実質的な公平性の確保が困難となる等、競争阻害的な要素が拡大するおそれがあることから、考慮の必要があるものである。

① 地域通信市場における競争の進展状況

NTT西日本からの届出書によれば、NTT西日本の固定電話等の契約者が本件活用業務の対象になるとされているところ、本件活用業務の性質及び設備形態に鑑みれば、固定電話のユーザが本件サービスの主な対象になり得ると考えられる。したがって、本件活用業務に関する競争状況は、NTT西日本が電気通信役務を提供する地域電気通信市場のうち、固定電話市場を取り上げることが適当である。

また、本件活用業務は、次世代ネットワークのSNIを介してサービスを提供する場合もあるところ、次世代ネットワークの提供を受けるに際しては、アクセス回線としてNTT西日本が提供する光ブロードバンドサービスに加入していることが必要である。したがって、競争の進展状況を検証すべき地域電気通信市場として、あわせて固定ブロードバンド市場につ

いても取り上げることとする。

「電気通信事業分野における市場検証（令和元年度）に関する年次レポート」（令和2年8月31日公表）のデータによれば、固定電話市場における令和2年3月末のNTT西日本のシェアを見ると、西日本地域において、64.2%を占めている状況である。

NTT西日本の市場支配力に関して、西日本地域において単独で市場支配力を行行使し得る地位にあると考えられるが、第一種指定電気通信設備に係る規制措置が講じられている一方で、NTT東西のシェアが横ばいで推移している傾向にあり、NTT西日本が固定電話市場における市場支配力を本件活用業務に関する市場において濫用した場合、当該市場における公正な競争を阻害するおそれもあると考えられる。

また、同報告書のデータによれば、固定ブロードバンド市場については、令和2年3月末のNTT西日本のシェア（卸電気通信役務によるものも含む。）を見ると、最低の地域において約40%を超えている（近畿地方）。また、都道府県別のFTTH市場における令和2年3月末のNTT西日本のシェアを見ると、最低の府県において約40%（徳島県）、最高の府県では70%を超えている（山口県）。

他方、本件活用業務は、NTT西日本の固定電話網とは別個にサーバ設備を調達し、同社の固定電話等の契約者に対し、公募により調達したインターネット接続回線、次世代ネットワークのSNIを組み合わせて、アプリケーションサービス、メール等送受信サービス及びサポートサービスを提供しようとするものである。

このような業務形態に鑑みれば、競争事業者においても、市販のサーバ設備や多数の事業者が提供しているインターネット接続回線を調達等することによって、同様の業務を営むことが可能である。

以上を踏まえれば、NTT西日本が本件活用業務に関する市場において、地域電気通信市場における市場支配力を行行使するおそれは高くないと考えられる。

ただし、市場支配力の行使の可能性は高くないものの、NTT西日本が固定電話市場及び固定系ブロードバンド市場において一定の市場支配力を有していると考えられることに鑑みれば、例えば、NTT西日本しか利用し得ないような同社のネットワークに係る機能を用いたり、同社のサービスと不適切にバンドルされたアプリケーションサービス、メール等送受信サービス又はサポートサービスを提供した結果、競争事業者が当該機能等を利用しなければ実質的に同等のサービスを提供することができないようにすることや、同社が他の事業者との接続の業務に関して知り得た情

報を不適切に当該サービスに流用すること等、同社が地域電気通信市場における市場支配力を本件活用業務に関する市場において濫用した場合、当該市場における公正な競争を阻害するおそれもあると考えられる。

このため、NTT西日本が届出書において講ずることとしている措置が公正な競争を確保するために適切なものであるかについて、②、③の状況とあわせて、ステップ2)において確認することとする。

② ボトルネック設備との関連性

本件活用業務を営むためにNTT西日本が調達するサーバ設備は、同社からの届出書によれば、市販で調達可能なものであるとともに、同社の固定電話網等とは別個に調達することとしており、また、本件活用業務は、これらのネットワーク固有の機能と一体として提供したり、このような機能の利用を必須とするものではないとしている。

上述の本件活用業務のサービス形態に鑑みれば、インターネット上にサーバ設備を設置しても同種のサービスの提供が可能である観点からは、ボトルネック設備への依存度は大きいものではないと考えられるが、サービス内容によっては、次世代ネットワークのSNIを介して提供する場合もあり、当該観点からは、ボトルネック設備と一定の関連性が認められる。

また、本件活用業務の提供に当たってはNTT西日本の固定電話網等の固有の機能の利用が必須の前提ではないとされているものの、例えば、次世代ネットワークのみが実装する機能とあわせて提供されることにより、他の電気通信事業者のネットワークを経由する場合において本件活用業務の内容が相当程度に制限される等の場合には、実質的に本件活用業務がボトルネック設備との関連性が高まる可能性もある。

これを踏まえ、NTT西日本が届出書において講ずることとしている措置が公正な競争を確保するために適切なものであるかについて、①、③の状況とあわせて、ステップ2)において確認することとする。

③ 市場支配的な電気通信事業者との連携の有無

本件活用業務は、NTT西日本が調達するサーバ設備を用いて、アプリケーションサービス、メール等送受信サービス及びサポートサービスを提供するものであり、また、市場支配的な電気通信事業者と連携したサービスの提供は、現時点において、予定していないことから、市場支配力の結合による競争阻害的な要素の拡大はないものと考えられる。

2) ステップ2 公正な競争を確保するために必要な措置

本件活用業務について、ガイドライン別紙「NTT東西が活用業務を電気通信事業の公正な競争の確保に支障のない範囲内で営むために講ずべき措置」に掲げる7つの項目ごとのNTT西日本が講ずるとしている措置の概要及び当該措置に関する考え方は次のとおりであり、NTT西日本からの届出書に記載されたとおりにこれらの措置が講じられる限りにおいて、本件活用業務は、電気通信事業の公正な競争の確保に支障のない範囲内で営まれるものであると考えられる。

① ネットワークのオープン化

【NTT西日本が講ずることとしている措置】

本業務は、市販で調達可能なサーバ設備を用いており、アプリケーションサービスについても、既に市場で普及しているアプリケーションのほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用い、メール等送受信サービス、サポートサービスについても、既に市場で普及している技術のほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用いており、既に他の企業等が提供しているサービスと同様のものである。

また、本業務を提供する当該サーバ設備、インターネット接続回線は、既存の当社の固定電話網等とは別個に調達するものである。

次世代ネットワーク、固定電話網については、既に接続約款において、接続料を設定し、接続に必要なインタフェース条件を開示する等、十分なオープン化措置を講じていることに加え、他事業者が市販で調達可能なルータ等の局内装置を用い当社と同様のネットワークを構築しようとする際に、必要となる中継光ファイバや局舎コロケーション等の提供条件については、既に接続約款に規定する等のオープン化措置によって、他事業者は同様の業務の提供が可能であり、接続の迅速性・公平性は確保されているものとする。

なお、他事業者から現在想定できないような具体的な接続を要望された場合等には、提供条件を提示した上で当該事業者との協議を行い、接続した場合には、必要に応じて当該接続条件をオープンにしていく考えである。

【総務省の考え方】

NTT西日本が本件活用業務に用いるサーバ設備等は、他事業者も同様に市販で調達可能なものであり、かつ、アプリケーションサービス、メール等送受信サービス及びサポートサービスについても、既に市場に普及している技術のほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用いるとともに、本件活用業務の提供に当たっては、上述のとおり、同社のネットワークに固有の機能の利用を必須とはしないとしている。

また、同社の次世代ネットワークについては既に接続約款において接続料を設定する等、接続条件を開示しているとともに、競争事業者もSNIを介して同様のサービスを提供できるように必要なオープン化措置を講じているとしている。

加えて、競争事業者が市販で調達可能なルータ等の局内装置を用いて同社と同様のネットワークを構築しようとする際に必要となる中継光ファイバや局舎コロケーション等の提供条件について、既に接続約款において規定する等のオープン化措置を講じている。

さらに、他事業者から現在想定できないような具体的な接続を要望された場合等には、必要に応じて当該接続条件をオープンにしていくとしている。

したがって、この限りにおいては、競争事業者も必要に応じサーバ設備やインターネット接続回線の調達等を通じて本件活用業務と同様の業務を営み得ると考えられることから、ステップ1) ①、②の観点からも、新たにネットワークのオープン化のための措置を講じる必要は認められない。

② ネットワーク情報の開示

【NTT西日本が講ずることとしている措置】

本業務に用いる設備は、市販で調達可能なサーバ設備を用いて構築できるものであり、アプリケーションサービスについても、既に市場で普及しているアプリケーションのほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用い、メール等送受信サービス、サポートサービスについても、既に他の企業等が提供しているサービスと同様のものであり、既に市場で普及している技術のほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用いているものである。また、本業務は、当該サーバ設備、インターネット接続回線を組み合わせて対応するものであり、当該サーバ設備及び当該サーバ設備とインターネットとの間の通信を可能にするために他事業者との合意に基づき公募により調達したインターネット接続回線との接続の条件については、インタフェース条件を本業務の提供にあわせて開示する考えである。

加えて、本業務に用いる次世代ネットワーク、固定電話網については、接続に必要なインタフェース条件を既に接続約款に規定済みである。今後とも国際的な標準化動向や機能の装置への実装状況、お客様ニーズを踏まえ、サービス追加に合わせてインタフェース条件等を開示するとともに、相互接続性を確保するよう必要なネットワーク情報を開示していく考えである。

なお、他事業者から現在想定できないような具体的な接続を要望された場合等には、他事業者の要望を踏まえ、迅速かつ合理的な価格(個別の費用負担を求めないものを含む。)で、必要不可欠なネットワーク情報の提供を行う考えである。

【総務省の考え方】

NTT西日本が本件活用業務に用いるサーバ設備等は、他事業者も同様に市販で調達可能なものであり、かつ、アプリケーションサービス、メール等送受信サービス及びサポートサービスについても、既に市場に普及している技術のほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用いるとともに、本件活用業務の提供に当たっては、上述のとおり、同社のネットワークに固有の機能の利用を必須とはしないとしている。

そして、NTT西日本の次世代ネットワークについては、接続に必要なインターフェース条件を接続約款に規定済みであり、また、国際的な標準化動向等を踏まえ、サービス追加に合わせて、インターフェース条件等を開示するとともに、相互接続性を確保するよう必要なネットワーク情報を開示していくとしている。

さらに、競争事業者から現在想定できないような具体的な接続を要望された場合等には、迅速かつ合理的な価格で、必要不可欠なネットワーク情報を提供するとしている。

したがって、ステップ1) ②に関し、NTT西日本のネットワークに固有の機能の利用を必須の前提としないこと等NTT西日本が届出書に記載していることとあわせ考えれば、競争事業者が必要に応じサーバ設備やインターネット接続回線の調達等を通じて本件活用業務と同様の業務を行い得ると考えられることから、必要な措置が講じられているものと認められる。

③ 必要不可欠な情報へのアクセスの同等性確保

【NTT西日本が講ずることとしている措置】

本業務は、市販で調達可能なサーバ設備を用いており、アプリケーションサービスについても、既に市場で普及しているもののほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用い、メール等送受信サービス、サポートサービスについても、既に市場で普及している技術のほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用いており、既に他の企業等が提供しているサービスと同様のものである。これらに加え、インターネット接続回線と同様の回線を組み合わせることで、他事業者も同様に提供可能なものであり、他事業者が本業務と同様のサービスを実現する場合に、当社の保有する情報の中に新たに必要不可欠となる情報は無いと考える。

なお、他事業者から現在想定できないような具体的な接続を要望された場合等には、他事業者の要望を踏まえ、必要不可欠な情報へのアクセスの同等性の確保に努める考えである。

【総務省の考え方】

N T T西日本が届出書に記載しているとおり、本件活用業務が市販で調達可能なサーバ設備等の通信機器を用いており、既に市場で普及している技術のほか、公募調達されたインターネット接続回線、N T T西日本のネットワークに固有の機能を必須としないものである等、他事業者が同等のサービスを提供できるものである限りにおいて、新たに不可欠情報へのアクセスの同等性確保のための措置を講じる必要性は認められない。

④ 営業面でのファイアーウォール

【NTT西日本が講ずることとしている措置】

従来から、営業面でのファイアーウォールについては、以下のとおり所要の措置を講じており、本業務の実施にあたっては公正な競争が阻害されることのないよう配慮することとし、営業面でのファイアーウォールを確保していく考えである。

- ① 本社や事業部／支店において、設備部門と設備部門以外の組織は別々の組織として設置しており、接続の業務を通じて知り得た情報を目的外に利用することがないよう、本社からの通達、社員用マニュアル、社員向け説明会等により徹底した指導を実施している。

また、電気通信事業法の改正(平成23年11月30日施行)を踏まえ、禁止行為規定遵守措置等報告書(令和2年6月30日)に記載のとおり、顧客情報管理システムへの適正なアクセス権限の設定、社内規程・委託契約の整備や運用ルールの見直し、監査・監督体制の強化等を通じ、情報セキュリティ及び法令遵守の一層の徹底を図っている。

- ② 電話の業務で取得した顧客情報については、公正競争の確保及び顧客情報保護の徹底を図るため、以下の内容について本社からの通達、社員用マニュアル、社員向け説明会等により徹底した指導を実施している。
 - i) お客様情報を他事業者と競合する業務に関し不適切に流用しないこと。
 - ii) 出力した情報は使用後に廃棄処理すること。
 - iii) ID管理により顧客情報管理システムの操作が可能な社員を限定すること。

等

なお、公正競争を阻害する場合には既存サービスとのバンドルサービスの提供を差し控える考えである。

本業務の営業活動の子会社等に委託する場合にあつては、自ら営業活動を行う場合と同様に、当該子会社等を通じた営業活動においてもファイアーウォールを確保するため、顧客情報等の厳格な取扱いについて指導することとする。

【総務省の考え方】

NTT西日本は、電話の業務で取得した顧客情報や接続の業務を通じて知り得た情報を目的外に利用したり、他事業者と競合する業務に関し不適切に流用したりすることがないように、本社からの通達、社員用マニュアル、社員向け説明会等により徹底した指導を実施することとし、公正な競争が阻害されることのないよう、営業面でのファイアーウォールを確保していく考えとしている。

また、既往の措置に加え、平成23年11月30日に施行された電気通信事業法の改正を踏まえ、顧客情報管理システムへの適正なアクセス権限の設定、社内規程・委託契約の整備や運用ルールの見直し、監査・監督体制の強化等を通じ、情報セキュリティ及び法令遵守の一層の徹底を図るとしており、この旨を記載した令和2年6月30日に提出を受けた禁止行為規定遵守等報告書について、当該内容の妥当性等の確認を実施しているところである。

加えて、本件業務の営業活動の子会社等に委託する場合にあっては、自ら営業活動を行う場合と同様に顧客情報等の厳格な取扱いについて指導することとしている。

なお、公正な競争を阻害することが明らかな場合には既存のサービスとのバンドルサービスの提供を差し控えるとしている。

したがって、これらの措置の徹底が図られる限りにおいて、営業面でのファイアーウォールは確保されると考えられ、直ちに電気通信事業の公正な競争の確保に支障を来すものとは認められない。

⑤ 不当な内部相互補助の防止（会計の分離等）

【NTT西日本が講ずることとしている措置】

本業務に関する収支については、電気通信事業会計規則に準じた配賦計算を行うことにより、他の電気通信役務に関する会計と分計する考えである。

また、コスト配分については、電気通信事業会計規則に準じた費用配賦を行う考えである。

なお、営業活動等に係る費用については、自らの子会社等に委託する場合を含め、原則、直接賦課の方法による費用配賦を行い、それが不可能な場合においても、商品別の稼働時間、取扱件数、新規獲得件数等に基づいた適切な配賦基準により、その他のサービスに係る営業費用と分計する考えである。

さらに、本業務の利用者料金に関しては、設備コスト及び営業費（顧客獲得に要するコストを除く。）の合計額を上回るよう設定し、競争阻害的な料金設定とならないようにする考えである。

【総務省の考え方】

NTT西日本は、本件活用業務に係る収支を、電気通信事業会計規則に準じた配賦計算等を行うことにより、子会社等に委託する場合も含め、その他のサービスに係る収支と分計するとしている。また、利用者料金についても、設備コスト及び営業費（顧客獲得に要するコストを除く。）の合計額を上回るように設定することとしており、必要な措置が講じられているものと認められる。

⑥ 関連事業者の公平な取扱い

【NTT西日本が講ずることとしている措置】

本業務の実施にあたって用いる設備は、市販で調達可能なサーバ設備を用いて構築できるものであるとともに、アプリケーションサービスについては、既に市場で普及しているアプリケーションのほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用い、メール等送受信サービス、サポートサービスについても、既に市場で普及している技術のほか、他事業者も同様に調達・開発が可能なものを用いており、既に他の企業等が提供しているサービスと同様のものであることから、当社が本業務で用いる設備についての不可欠性はないと考える。

インターネット接続回線と同様の回線を組み合わせることで他事業者も提供可能なものであり、オープンな接続性を確保し十分な情報提供に努めることにより、関連事業者の公平な取扱いを確保する考えである。

また、本業務で用いる次世代ネットワーク、固定電話網については、接続に必要となるインタフェース条件を既に接続約款に規定済みであり、また、本業務が次世代ネットワークのSNIへ接続する場合には、関連事業者が接続する場合と同等の条件及び費用負担により接続することから、関連事業者の取扱いに関する公平性は確保されている。

本業務においては、インターネットに接続してメール等送受信を行う際に、送受信先がメールアドレスとなる場合は、提供事業者やサービスによる特段の制限を設けていないことから、関連事業者の公平な取扱いは確保されている。

なお、本業務を営む上で、「NTT東西の活用業務に係る公正競争ガイドライン」に規定されている他の市場支配的な電気通信事業者との接続及び営業面等での連携は当面予定していない。

今後、「NTT東西の活用業務に係る公正競争ガイドライン」に規定されている他の市場支配的な電気通信事業者との接続を行う場合においては、接続約款の規定に基づき接続する等、他事業者との接続と同等の条件で行うこととし、営業面等での連携を行う場合において競争事業者との実質的な公平性の確保に努める考えである。

【総務省の考え方】

NTT西日本は、本件活用業務を営むに当たり、本業務で用いる次世代ネットワークについては、接続に必要となるインタフェース条件を既に接続約款に規定済みであり、また、本業務が次世代ネットワークのSNIへ接続する場合には、関連事業者が接続する場合と同等の条件及び費用負担により接続する考えとしており、関連事業者の公平な取扱いを確保することとしている。

そして、インターネットに接続してメール等送受信を行う際に、送受信先がメールアドレスとなる場合は、提供事業者やサービスによる特段の制限を設けていないことにより、関連事業者の公平な取扱いを確保する考えであるとしている。

なお、本件活用業務においては、他の市場支配的な電気通信事業者との接続及び営業面等での連携は当面予定しておらず、接続及び営業面等での連携を行う場合において競争事業者との実質的な公平性の確保に努める考えであるとしている。

また、NTT西日本が本件活用業務に用いるインターネット接続回線は公募により調達することが同社の届出書に記載されている。

さらに、本件活用業務が届出書の範囲内で行われる限り、競争事業者が同種の業務を営む際に、NTT西日本のネットワークに固有の機能の利用が必須であることはなく、競争事業者もサーバ設備やインターネット接続回線等の調達等を通じて同様の業務を営むことが可能であり、また、本業務において次世代ネットワークのSNIを介する場合にも、競争事業者が利用する場合と同等の条件及び費用負担で利用するとしている。

したがって、この限りにおいて、ステップ1) ①、②の観点からも、関連事業者の公平な取扱いは確保されていると考えられる。

⑦ 実施状況等の報告

【NTT西日本が講ずることとしている措置】

(1)～(6)の各種措置の実施状況・収支状況・利用状況については、毎事業年度経過後6ヶ月以内に総務大臣に報告し、これを公表する考えである。

また、報告資料のうち、費用(収益)項目一覧、サーバ設備、インターネット接続回線の募集案内及び社内文書・規程類等については、それぞれ以下の理由により非公表とする。

・費用(収益)項目一覧:

経営上の秘密に属する情報に該当するため。

・サーバ設備、インターネット接続回線の募集案内:

公表することにより、通信設備の位置等が公となり、不正侵入の目標にされる可能性が高まることでサービスの安全が脅かされる恐れがあること、また、サービスの技術仕様、運営体制等が明らかになることで不正侵入への脆弱性を高める恐れがあること等、通信の安全が脅かされるおそれがあるため。なお、公募調達時においても他事業者に対して利用目的を限定した守秘義務契約を結んだ上で、個別に開示している。

・社内文書・規程類等の一部：

コーポレートガバナンスを構築する上でノウハウの保持が必要なため。また、公表することにより悪意の第三者による違法若しくは不当な行為を容易にし、またはその発見を困難にするおそれがあるため。

【総務省の考え方】

N T T 西日本は、各種措置の実施状況等について、毎事業年度経過後 6 か月以内に総務大臣に報告し、これを公表するとしており、必要な措置が講じられているものと考えられる。

上述の項目①から⑦までに関し、これらの措置が十分に実施されない、あるいは市場環境の変化等により公正な競争を確保するための措置が新たに求められるような状況が生じた場合、必要に応じて実施状況の報告を求めることを含め、総務省として個別に適切な対応を行っていく考えである。